グラフィカルモデルと因果探索

版大 基礎工 数理 鈴木 讓

2025.11.23 R研究集会@統計数理研究所

本日のアジェンダ

- グラフィカルモデルと因果探索
- 新書「グラフィカルモデルと因果探索 with R」(共立出版)
- 依存関係の探索
- 変数順序の探索
- LiNGAMの紹介
- CRAN BNSLパッケージ by Joe Suzuki
- ・まとめ

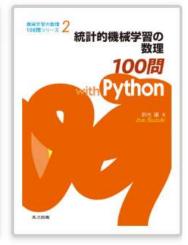
機械学習の数理 **夕** 100問シリーズ

機械学習の数理100問シリーズ(共立出版)



	R	Python	阪大講義
統計的機械学習の数理	2020.3	2020.4	学部3年半期(毎年)
スパース推定	2020.11	2021.2	2021前期
グラフィカルモデルと因果推論	2025.12.11		
機械学習のためのカーネル	2021.11	2021.12	2022前期
渡辺澄夫ベイズ理論	2023.9	2024.6	2023前期
深層学習の数理			2025前期











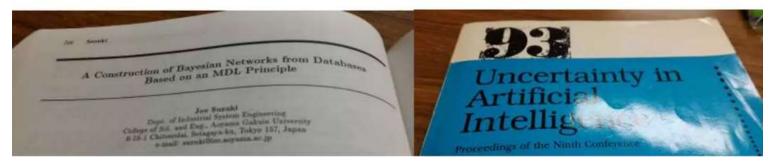


鈴木讓1

そもそもの専門: 確率的グラフィカルモデル

Joe Suzuki: "A Construction of Bayesian Networks from Databases Based on the MDL Principle" (UAI-93)

第9回 Uncertainty in Artiicial Intelligence (1993)





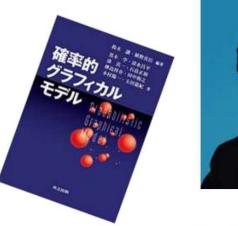


第33回 Uncertainty in Artiicial Intelligence (2017) 8月11日-15日

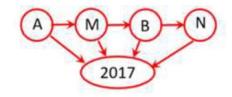




電気通信大学教授 植野真臣氏



産業技術総合研究所 東工大併任教授 本村陽一氏



教育工学などで 博士を多数輩出

The Third Workshop on Advanced Methodologies for Bayesian Networks 20-22 September 2017 Kyoto, Japan



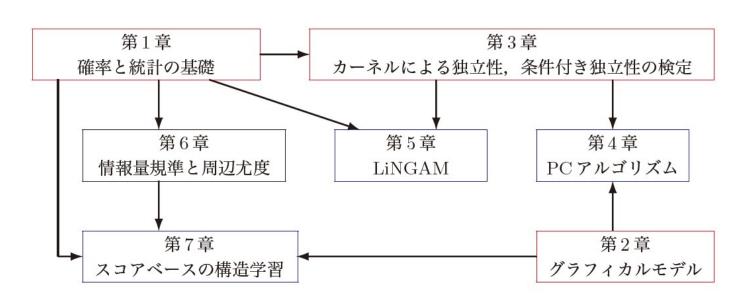
国内唯一のベイジアンネットワーク 運用ツール

グラフィカルモデルと因果探索 with R

機械学習の数理100問シリーズ(共立出版)

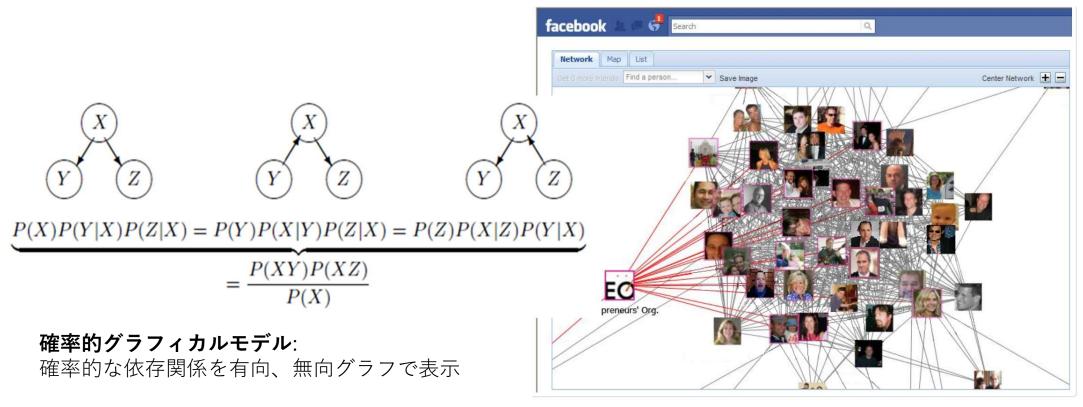
2025年12月11日

因果探索 = 変数順序の探索 + 依存関係の探索





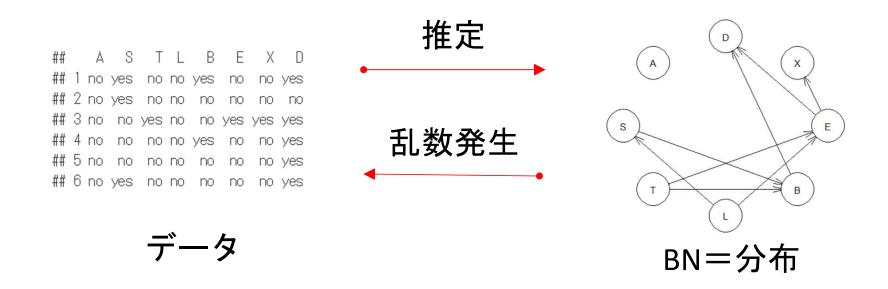
確率的グラフィカルモデル(SEM, BN, MNなども) とネットワーク分析の差異



ネットワーク分析:

示したい関係(何でもよい)を有向、無向グラフで表示

統計学: データから正しい構造を推定

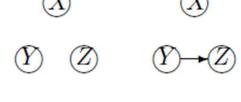


• サンプル数 nが大きいときに、正しい構造を推定

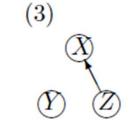
ベイジアンネットワークの構造学習

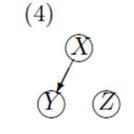
Bayesian Network Structure Learning (BNSL)

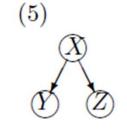


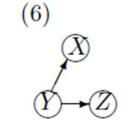


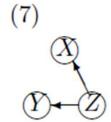
(2)



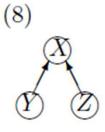


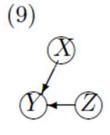


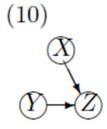


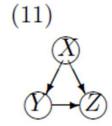


(1)





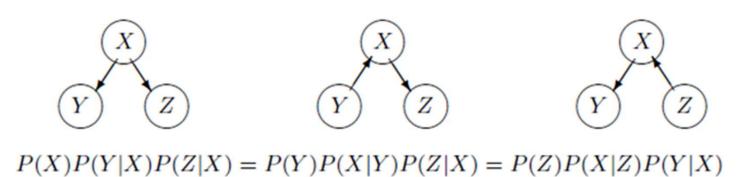




構造

ベイジアンネットワーク (BN)

分布の因数分解を、有向非巡回グラフ(DAG)で表現した もの



$$= \frac{P(XY)P(XZ)}{P(X)}$$

(同値)

スコアベースの BNSL

p変数のデータからなるサンプル x_1, \ldots, x_n

• 事後確率最大

構造の事前確率×その構造での周辺尤度(パラメータで周辺化)

情報量基準 (AIC/BIC)

$$-\sum_{i=1}^n \log P(x_i|\mathcal{N}ラメータの最尤推定) + \mathcal{N}ラメータ数$$
$$-\sum_{i=1}^n \log P(x_i|\mathcal{N}ラメータの最尤推定) + \frac{\mathcal{N}ラメータ数}{2} \log n$$

パラメータ: 他変数のもとでの条件付き確率

- 厳密解は、pに対して指数的
- Hill Climbing など、探索する範囲を限定
- グラフの範囲を限定(森など)

ベイズ統計学: データのもとでの事後確率最大化

パラメータを周辺化した事後確率

P(構造|データ)

= P(構造)∫P(データ|構造,パラメータ)P(パラメータ|構造)dパラメータ

構造の事前確率

パラメータの事前確

率

事前確率としては、標準的なもの

構造	(1)-(11)のどれか
パラメータ	各部分の条件付き確率



投稿 基本データ 友達 写真

友達

すべての友達 最近追加した友達 誕生日



Peter Laurence Spirtes Carnegie Mellon University

動画

制約ベースのBNSL (PCアルゴリズム)

YBN、MNは、p変数間の条件付独立性の関係(複数)を同時に表現したもの

条件付き独立性の検定を繰り返す

完全グラフから枝を切っていく

事象 A, B が独立 (A 川 B)

$$P(A \cap B) = P(A)P(B)$$

事象 A, B が事象 C のもとで条件付き独立 $(A \perp\!\!\!\perp B|C)$

$$P(A \cap B|C) = P(A|C)P(B|C)$$



Clark Glymour

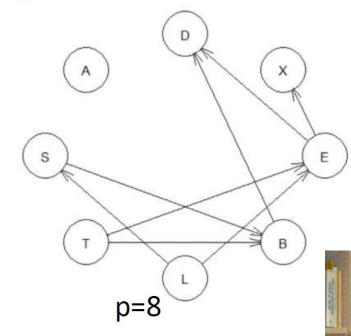
BNSL**の基本的な使い方**(1): 離散 BN

library(BNSL) g=bnsl(asia)

plot(g)

ASIA (Lauritzen 1996)







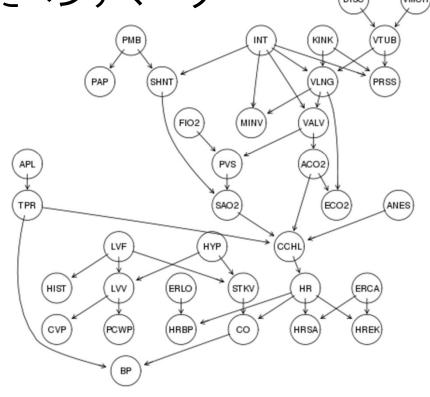
変数の個数pとともに指数的な計算?

library(BNSL)
g=bnsl(alarm)
plot(g)

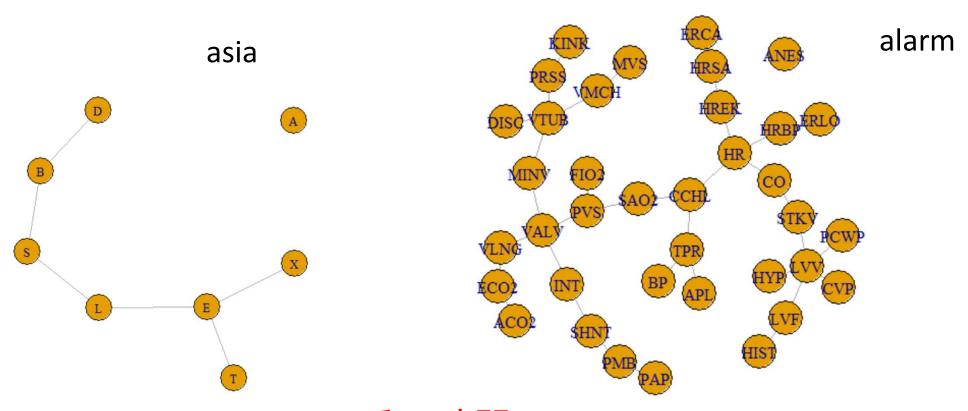
PCで、1日かかる

g=bnsl(alarm[,1:20]) など、変数の個数を限定する Alarm p=37

最も知られたベンチマーク



alarmはBNで1日かかるが、森だと5秒で完了



pの2乗の時間

CRAN パッケージ bnlearn <u>www.bnlearn.com</u>

BNの構造学習、確率推論で最もよく使われているパッケージ

Marco Scutari 氏

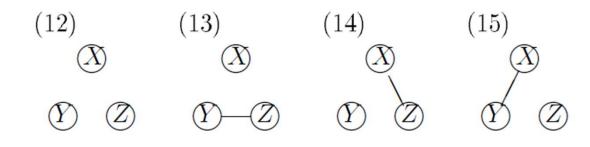


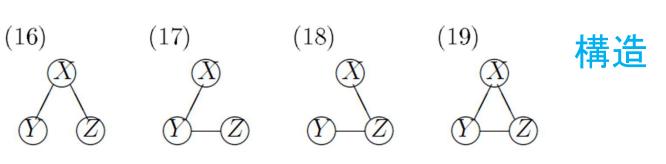


$$\begin{array}{c|cccc} X & Y & Z \\ \hline x_1 & y_1 & z_1 \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ x_n & y_n & z_n \end{array}$$

森の構造学習

Forest Structure Learning (FSL)





相互情報量

独立性を仮定した場合 とのK-L情報量

X, *Y* が離散:

$$I(X,Y) = \sum_{x} \sum_{y} P_{XY}(x,y) \log \frac{P_{XY}(x,y)}{P_{X}(x)P_{Y}(y)}$$

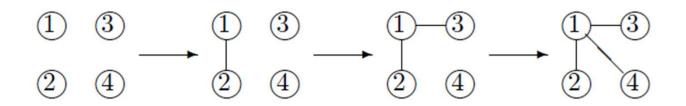
X,Y が連続:

$$I(X,Y) = \int_{x} \int_{y} f_{XY}(x,y) \log \frac{f_{XY}(x,y)}{f_{X}(x)f_{Y}(y)} dxdy$$

$$I(X,Y) \geq 0 \qquad \qquad \qquad 独立であると き I(X,Y) = 0 \Longleftrightarrow X \perp\!\!\!\perp Y \qquad$$
だけのになる

データ -> 相互情報量の推定値 -> 森 (Chow-Liu, Kruskal)

分布が森で表現されることを仮定



$$I(1,2) > I(1,3) > I(2,3) > I(1,4) > I(3,4) > I(2,4) > 0$$

相互情報量の推定値大きいものから、 ループができない限り、辺を結んでい く

ベイズ相互情報量推定量

 $\alpha, \beta \geq 2$

$$x^n = (x_1, \dots, x_n) \in \{1, \dots, \alpha\}^n$$
 , $y^n = (y_1, \dots, y_n) \in \{1, \dots, \beta\}^n$ 多項分布にしたがう

 $Q(x^n): x^n$ の周辺尤度, $Q(y^n): y^n$ の周辺尤度, $Q(x^n, y^n): x^n, y^n$ の周辺尤度 $I(x^n, y^n):$ 相対頻度を用いて計算した相互情報量の推定値 (最尤推定)

$$J(x^n, y^n) := \frac{1}{n} \log \frac{Q(x^n, y^n)}{Q(x^n)Q(y^n)} \approx I(x^n, y^n) - \frac{1}{2}(\alpha - 1)(\beta - 1) \log n$$

確率1で

$$J(x^n, y^n) \le 0 \Longleftrightarrow X, Y$$
 が独立

相互情報量の推定:連続でもできる(新書に記載)

連続、離散混在でもできる(研究レベル)

離散 --- 連続 --- 離散

(困難)

連続 --- 離散 --- 連続

(容易)

ゲノム解析への応用 (1)

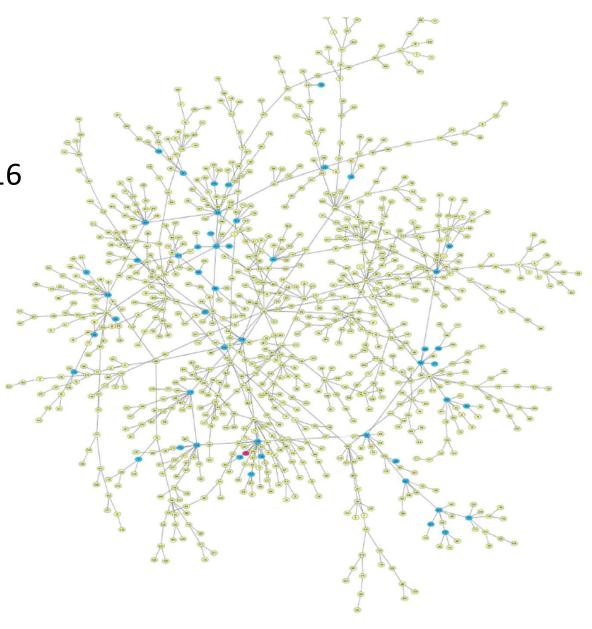
Int. J. Approximate Reasoning, 2016

乳がん患者の遺伝子発現データ (p51遺伝子をもつサンプル192個、 もたないサンプル58個)

青: p値の大きな遺伝

子

赤: 症例/対照 1000個の連続変量 1個の2値変量

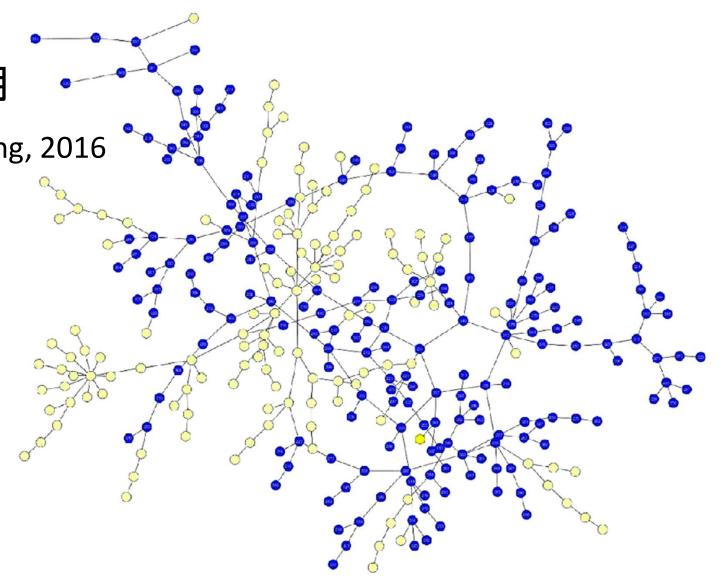


ゲノム解析への応用

(2) J. Approximate Reasoning, 2016

青: 遺伝子発現量

赤: SNP (3値)

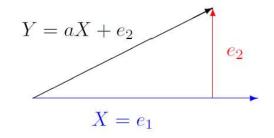


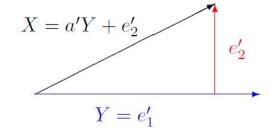
加法雑音モデル (狩野 2003)

X,Y:線形従属

$$\begin{cases} X = e_1 \\ Y = aX + e_2 \end{cases} \quad a = \frac{\operatorname{Cov}(e_1, e_2)}{\operatorname{V}(e_1)} \quad e_1 \perp \!\!\!\perp e_2 \implies X \to Y$$

$$\begin{cases} Y = e'_1 \\ X = a'Y + e'_2 \end{cases} \quad a' = \frac{\operatorname{Cov}(e'_1, e'_2)}{\operatorname{V}(e'_1)} \quad e'_1 \perp \!\!\!\perp e'_2 \implies Y \to X$$





e_1, e_2 がガウスだと識別できない

$$\begin{cases} X = e_1 \\ Y = aX + e_2 \end{cases} \begin{cases} Y = e'_1 \\ X = a'Y + e'_2 \end{cases}$$

 e_1, e_2 : $\exists D$ $\Rightarrow X, Y$: $\exists D$ $\Rightarrow e'_1, e'_2$: $\exists D$ $\Rightarrow E'_1,$

 e_1, e_2 : ガウス $\Longrightarrow e_1 \perp \!\!\! \perp e_2, e_1' \perp \!\!\! \perp e_2'$ (識別不可)

具体的な手順(2変数)

$$x^{n} = (x_{1}, \dots, x_{n})$$
 $y_{x}^{n} := y^{n} - \frac{c(x^{n}, y^{n})}{v(x^{n})}x^{n}$ $y_{x}^{n} := y^{n} - \frac{c(x^{n}, y^{n})}{v(x^{n})}y^{n}$ $y_{x}^{n} := x^{n} - \frac{c(x^{n}, y^{n})}{v(y^{n})}y^{n}$ $y_{x}^{n} := x^{n} - \frac{c(x^{n}, y^{n})}{v(y^{n})}y^{n}$

 $x^n \perp \!\!\! \perp y_x^n$ と $y^n \perp \!\!\! \perp x_y^n$ のどちらが真か

 $v(\cdot)$: 標本分散, $c(\cdot, \cdot)$: 標本共分散

具体的な手順(3変数):上流からの影響をのぞいて、残差の独立性を評価

$$x^{n} = (x_{1}, \dots, x_{n})$$

$$y^{n} = (y_{1}, \dots, y_{n})$$

$$z^{n} = (y_{1}, \dots, y_{n})$$

$$dtalequation (n: 標本サイズ)$$

第1ステージ

$$x^n \perp \!\!\! \perp \{y_x^n, z_x^n\}$$
 と $y^n \perp \!\!\! \perp \{z_y^n, x_y^n\}$ と $z^n \perp \!\!\! \perp \{x_z^n, y_z^n\}$ のどれが真か

$$\left. \begin{array}{c} y_{xoldsymbol{z}}^n := y_x^n - rac{c(y_x^n, z_x^n)}{v(z_x^n)} z_x^n \ z_{xoldsymbol{y}}^n := z_x^n - rac{c(y_x^n, z_x^n)}{v(y_x^n)} y_x^n \end{array}
ight\}$$
 として、 $\left. \begin{array}{c} z_{xoldsymbol{y}}^n := z_x^n - rac{c(y_x^n, z_x^n)}{v(y_x^n)} y_x^n \end{array}
ight\}$

第2ステージ

$$y_x^n \perp \!\!\! \perp z_{xy}^n$$
 と $z_x^n \perp \!\!\! \perp y_{xz}^n$ のどちらが真か

具体的な手順(3変数): まとめると

$$x^{n}, y^{n}, z^{n} \Longrightarrow \begin{cases} x^{n} \perp \!\!\! \perp \{y_{x}^{n}, z_{x}^{n}\} \implies \begin{cases} y_{x}^{n} \perp \!\!\! \perp z_{xy}^{n} \implies X \to Y \to Z \\ z_{x}^{n} \perp \!\!\! \perp y_{xz}^{n} \implies X \to Z \to Y \end{cases}$$

$$x^{n}, y^{n}, z^{n} \Longrightarrow \begin{cases} y^{n} \perp \!\!\! \perp \{z_{y}^{n}, x_{y}^{n}\} \implies \begin{cases} z_{y}^{n} \perp \!\!\! \perp x_{yz}^{n} \implies Y \to Z \to X \\ x_{y}^{n} \perp \!\!\! \perp z_{yx}^{n} \implies X \to Z \to Y \end{cases}$$

$$z^{n} \perp \!\!\! \perp \{x_{z}^{n}, y_{z}^{n}\} \implies \begin{cases} x_{z}^{n} \perp \!\!\! \perp y_{zx}^{n} \implies Z \to X \to Y \\ y_{z}^{n} \perp \!\!\! \perp x_{zy}^{n} \implies Z \to Y \to X \end{cases}$$

HSIC による独立性検定

X: 集合

 $k: \mathcal{X} \times \mathcal{X} \to \mathbb{R}$: 正定値カーネル

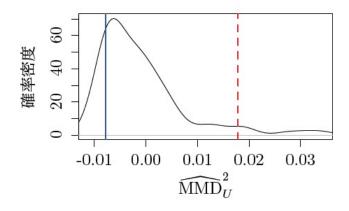
H: k に対応する RKHS (再生核ヒルベルト空間)

X,Y: X を標本空間とする確率変数

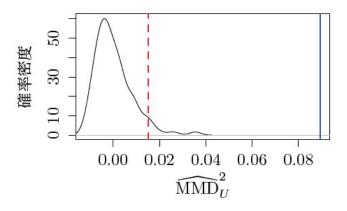
- HSIC (Hilbert-Schdmit Information Criterion)

 $X,Y \in \mathcal{X}$ の独立性を $k(X,\cdot), k(Y,\cdot) \in H$ の独立性で評価

 $\mathrm{HSIC}(X,Y) := \|\mathbb{E}[k(X,\cdot)k(Y,\cdot)] - \mathbb{E}[k(X,\cdot)]\mathbb{E}[k(Y,\cdot)]\|_H^2 = 0 \Longleftrightarrow X \perp \!\!\! \perp Y$



X,Y の分布が同じ場合 (並べ替え) X,Y の分布が異なる場合 (並べ替え)



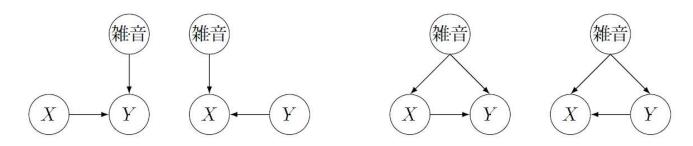
LiNGAMとHSICのプログラム (第5章)



	4.4	_ スプライン	1
	4.5	Random Fourier Features	1
	4.6	Nyström 近似	2
	4.7	不完全 Cholesky 分解	2
	付録:	命題の証明	2
	問題	46~64	2
第	5章	MMD & HSIC	13.
	5.1	RKHS における確率変数	3
	5.2	MMD と 2 標本問題	3
	5.3	HSIC と独立性検定	4
	5.4	特性カーネルと普遍カーネル1	5
	5.5	経験過程入門	5
	付録:	命題の証明	6
	問題	65~83	6
第	6章	Gauss 過程と関数データ解析	17
	0.4		

最近の成果: 交絡の存在を許容

 $(x_1,y_1),\cdots,(x_n,y_n)\in\mathbb{R}\times\mathbb{R}$ から、 $X\to Y$ or $Y\to X$ を同定したい



いずれかを真と仮定 (LiNGAM)

交絡があるのがふつう (本研究)

貢献

- 1. KL情報量で交絡を定量化し、それを最小にする定式化
- 基準の提案

- 2. 最短経路問題を用いた因果順序同定の計算方法
- 3. 解の正確さ、計算の少なさの保証

まとめ

- 1. 確率的グラフィカルモデルの概要
- 2. 機械学習の数理100問シリーズ「確率的グラフィカルモデルと LiNGAM with R」
- 3. CRAN BNSL
- 4. LiNGAMの概要

ブラックボックスにしないで、中味を理解してもらいたい